

眉毛エクステンションの現状と今後の課題

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 真殿, 由加里 メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4365

眉毛エクステンションの現状と今後の課題

学芸学部 化粧ファッション学科 真殿 由加里

要旨：本論文では、眉毛エクステンションの現状および実態を解説し、美容師有資格者が責任をもって施術できる安全な技術とするための諸課題を考察する。そのためにまず、インターネット上の情報を調査し、眉毛エクステンションの普及度を明らかにするとともに、一般の消費者がどのような情報を入手できるのかを明らかにした。さらに、眉毛エクステンションの協会が開催する技術講習に参加し、眉毛エクステンションの施術に関する実態を調査した。結果、眉毛エクステンションはまだ発展途上の技術であり、インターネット上の情報にもばらつきがあること、グルーの安全性が保証されていないこと、まつ毛エクステンションの美容技術が確立されていないことなどの問題点が明確になった。今後眉毛エクステンションを安全な美容技術として普及させるためには、技術の標準化、グルーの安全性の保証、およびそれらを統制する運用規定の設置が必要である。

キーワード：眉毛エクステンション、グルー、化粧、美容、まつ毛エクステンション

はじめに

日本でも現在、まつ毛エクステンションにつづき、眉毛エクステンションの存在が知られるようになっていく。しかし、その技術には標準的な方法が設けられているわけでもなく、法的規定もあいまいな状態である。

まつ毛エクステンションと同様に考えれば、眉毛エクステンションにも美容師資格が必要なはずである。まつ毛エクステンションは2004年ごろから日本に普及し始めたが、その施術資格はしばらくの間明確ではなかった。その後、まつ毛エクステンションにかかわる消費者トラブルの解決に向けて、2008年に厚生労働省が「まつ毛エクステンションによる危害防止の徹底について」を通達した。それにより、まつ毛エクステンションは美容師法の言う「美容」に該当することが明確に示された。通達の根拠は、美容師法第2条第1項において、美容とは、通常首から上の容姿を美しくすること、と解されている点である(厚生労働省2008)。この根拠は、眉毛エクステンションにも当てはまるはずである。

眉毛エクステンションが美容師資格を要する施術であれば、美容師養成施設ではその教育を行う必要がある。しかしながら、眉毛エクステンションの美容技術は、美容師養成施設で学ぶ教科書に扱いは無く、美容技術も確立していない。それゆえ、眉毛エクステンシ

ョンの問題点や危険性を正しく認知せずに実施している美容師もいると考えられる。

そこで、本論文では、眉毛エクステンションの現状および実態を解説し、美容師有資格者が責任をもって施術できる安全な技術とするための諸課題を考察する。まつ毛エクステンションに関して言えば、技術基準の設置や法解釈が、消費者トラブルの後手に回ったという経緯がある。眉毛エクステンションに関してはそのような問題が起こらないようにするために、課題の認知を急ぐべきである。

1. 眉と眉化粧の重要性

眉は時代と共に形状や位置、役割などが大きく変化する重要な顔のパーツである。したがって眉化粧は化粧の中でもより重要視されてきた。

例えば、平安時代末期では、公家の男性や武士も眉化粧をするようになり、蛾眉や三日月眉とよばれる眉の形状の美意識も生まれ、やがて眉を抜き上の方へ描かれるようになっていった。当時の眉化粧は、権威の象徴、身分や階級などを誇示するものであり、社会的にも眉化粧は重要なものであった(津田・村田1985; ポーラ文化研究所1989; 村澤2007)。現代では眉が身分を表すことは無いが、流行によって眉の太さや長さが増え、眉の形状も並行・上方・下方と様々に変化し続けている。

また眉は、感情を表出するうえでも重要で、表情による変化が大きく反映されるパーツである。したがって、動きや角度、高さ、曲率を変化させることで顔の感情表情を表すことが可能であり、ノンバーバルコミュニケーションにおいて必要不可欠である（例えば、Ekman & Friesen 1978）。

さらに、眉は個人を同定するうえでも重要である（Sadr, Jarudi, & Shnha 2003）。Sadrらの実験では、有名人（リチャード・M・ニクソン大統領や俳優ウィノナ・ライダー）の顔画像の一部だけが隠された写真に対して、名前を当てられるかどうか調べられた。その結果、目を隠すよりも眉を隠す方が顔の認識が困難になることが示されている。つまり、顔認識において、目よりも眉の方が重要な役割を果たしているということであり、その人を表すものとして認識されやすいということである。

これらのことから、眉の形状を変化させる眉化粧品は、人への印象に影響を与え、その人そのものを示す手がかりとなる重要な役割を果たしていることがわかる。だからこそ、眉の形状を変化させることが可能な眉毛エクステンションは有望な技術であり、美容技術として確立される価値がある。

2. 眉毛エクステンションの普及

眉毛エクステンションについて、JEEA日本眉毛エクステンション協会によると、2014年頃から欧米で取り入れられた美容技術であり、アメリカのニューヨークやイギリスのロンドンでも広く知られているという（日本眉毛エクステンション協会 2018）。

日本では、2015年に日本で初めて眉毛エクステンションの専門講座や資格認定を行う協会として日本眉毛エクステンション協会が誕生したことから、2015年以降徐々に眉毛エクステンションの美容技術が広まっていったと考えられる。その後、テレビや雑誌などのメディアで眉毛エクステンションについて取り上げられるようになり、現在では注目されつつある美容技術である。

3. 眉毛エクステンションの二つの技法

眉毛エクステンションとは、眉部に人工毛を専用グルー（接着剤）で装着する美容技術であり、いくつかの方法が知られている。1つ目は、まつ毛エクステンションと同様に、実際に生えている眉毛1本に対して人工毛1本を装着する手法である。この方法では、理論上は人工毛や接着剤が皮膚に接触することはない。

それゆえ、より強力で持続力の強いグルーを安全に使用することができる。しかし、地毛の生えていない部分には適用できず、実際には後述するような問題点も指摘される。

2つ目は、皮膚に人工毛をグルーで装着する手法である。その中でも、1日で除去することを前提としているタイプと、数日から数週間持たせることを目的としているタイプがある。前者は繊維入りマスカラと同じような発想であり、すでに市場に広く出回っている化粧品と同じ薬剤で実現が可能と考えられる。しかし後者のように、数日間持たせようとすれば、ある程度の強度のグルーを使用する必要がある。このようなグルーで、肌への安全性が保障されている商品はほとんど知られておらず、留意する必要がある。この点も後述する問題点である。

4. 消費者が得られるインターネット上の情報

眉毛エクステンションの問題点を指摘する前に、一般の消費者に向けてどのような情報が開示されているのかをまとめておく。そのために、インターネット上で、サロンが提供している眉毛エクステンションのサービス、眉毛エクステンションのメリットやデメリット、眉毛エクステンションの商材、眉毛エクステンションに関する動画、眉毛エクステンションの技術講習について、どのように述べられているのかを調べた。

4.1 サロンでのサービス

眉毛エクステンションのサービスを提供するサロンは増えてきており、ホットペッパービューティーのサイトで全国を対象に「眉毛エクステンション」で検索すると22件ヒットした（2018年9月）。同様に「まつ毛エクステンション」で検索すると385件ヒットした（2018年9月）。両者を比較すると、まつげエクステンションの方が明らかに普及しているが、眉毛エクステンションも普及の過程であると推察される。

眉毛エクステンションの施術時間は約1時間から2時間、料金は6,000円から10,000円以上で、接着する人工毛の本数で料金設定をしているサロンが多い。まつげエクステンションも眉毛エクステンション同様、施術時間は約1時間から2時間である。しかし、まつげエクステンションの料金は、普及度を反映してか、3,000円から8,000円以上と眉毛エクステンションよりも安めに設定されている。

4.2 メリットに関する記述

インターネット上で記載されている眉毛エクステーションのメリットについては、2つに大別することができる。1つ目は、眉毛にボリュームが出せる点である。これは、眉毛が少ない、薄い、細い、短い、まばらに生えているといった悩みを持つ者でも、眉毛が自然にしっかりと生えているように立体的に見せることができること謳われている（例えばEieiooo 2018; 眉毛エクステ 2018）。

2つ目は、理想の眉毛の形状や色にできる点である。理想とする眉の形に整えられるほか、接着する人工毛の色も選ぶことができるため理想の眉毛を手に入れることができると謳われている（例えばEieiooo 2018; 眉毛エクステ 2018）。

4.3 デメリットに関する記述

インターネット上で記載されている眉毛エクステーションのデメリットについては、2つに大別することができる。1つ目は、持続性が良くない点である。眉毛に人工毛を装着した場合は、1週間から3週間の持続性があるが、皮膚に直接人工毛を装着した場合は、数日から2週間で取れてしまうと書かれている（例えばEieiooo 2018; 眉毛エクステ 2018）。

2つ目は、眉毛や皮膚に害がでる可能性がある点である。肌が弱い人や敏感肌の人など、グルーが合わない場合は、異常が起きることがあると書かれている（例えばEieiooo 2018; 眉毛エクステ 2018）。

4.4 商材に関する情報

眉毛エクステーションの商材については、インターネット上で簡単に誰でも購入することが可能である。しかし、グルーについては、一般の消費者にはわかりやすく提供されているとはいいがたい。眉毛に接着する用途のものや皮膚に接着する用途のものなど、接着用途に分けて製造販売されているものがある。一方で、接着方法の指定もないものも多く販売されている。なかには、「まつげ・まゆげ用透明タイプ」や「まつげ・眉毛まゆげへのセクステにご利用ください」とまつ毛エクステーションにも眉毛エクステーションにも併用できるグルーと認識できるものがあった。しかし、注意事項をよく読むと、「まつげエクステーション以外の用途でのご使用はお止め下さい」と矛盾が生じる記載があり、使用用途の判断ができないものもあった（BSS 2018）。また、成分表示については、成分表示がまったく記載されていないものから、

シアノアクリレートなどの主成分のみ記載があるものなどがあったが、全成分記載されているものは見つからなかった。その他、グルーの色については、まつ毛エクステーションは黒色が多いなか、眉毛エクステーションは透明（ノンカーボン）のものが多かった。

4.5 消費者自身による施術実践動画

インターネット上で配信されている眉毛エクステーションに関わる動画についての情報を検索した。すると、セルフ眉毛エクステーション用に販売されているキットを消費者が試してみるといった動画も見受けられた（Youtube で20件程度、2018年9月）。また、美容師有資格者が消費者に対して施術する動画は少なく、施術方法についての詳細が分かる動画は無かった。さらに、それらはほとんどが施術のコツや使用感について述べているものであり、安全性などについて詳しくわかるものはなかった。

4.6 技術講習に関する情報

眉毛エクステーションの技術講習は、主に眉毛エクステーションに関わる協会が主催しているが、まつ毛エクステーションの技術講習ほど頻繁に行われていない。講習時間は5時間から12時間ほどか、1日から2日ほどで美容技術が修得できるような講習が多く、料金設定も12万円から19万円ほどで（例えばJEEA日本眉毛エクステーション協会 2018; JAPAN BROWTIST SCHOOL 2018）非常に高額である。講習内容は、眉毛エクステーションの歴史について、基礎知識について、眉のデザインに関することについて、パッチテストについて、カウンセリングについて、施術行程について、技術について、アフターケアについて、商材について、経営に関することについてなどが組み込まれている。これらの技術講習を受講する者は、美容師有資格者でなければならないという条件付きであった。その他にも、通信講座として動画配信なども行われており、30分程度の動画で料金は4万円ほどで非常に高額であった。

5. 美容技術としての眉毛エクステーションの課題

これまで眉毛エクステーションの現状を述べてきたが、確立された美容技術として提供するためには、解消すべき問題点がある。本節では、それらの問題点を指摘する。

5.1 地毛のみに人工毛を接着することの非現実性

眉毛エクステンションの基本的手法は、眉毛1本に対して人工毛1本を装着するという技術である（図1）。これはまさに文字通り、毛をエクステンド（延長）する技術である。しかし、多くの場合、この技術だけで目的の眉を実現するのは現実的には困難である。

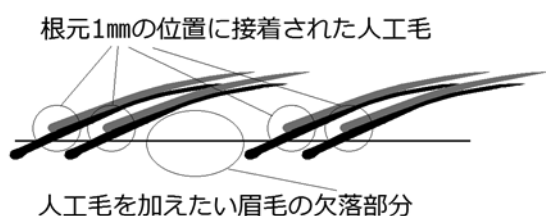


図1 眉毛1本に対して人工毛1本を装着した場合

眉毛の構造は、眉毛が皮膚に対して鋭角に生えており、さらに皮膚に沿うように毛が重なっているため、専用ツイザーで眉毛1本だけをかき分けるのは、それだけでかなり難しい。さらに、そこに接着をするという作業が加わるのである。まつ毛であれば、眼瞼縁に3列ほど生えているだけであるため、1本1本のまつ毛を専用ツイザーでかき分けることが可能である。さらに、まつ毛エクステンションであれば、瞼に接着する専用テープを調整することで、人工毛を接着しやすいようにまつ毛の角度を調整することができる。しかし、眉毛の場合は、先述の通りの生え方なので、専用テープを使用して毛の角度を変えることは難しい。

また、この方法は、眉を整形することにはあまり適していない。多くの場合、まつ毛とは異なり、眉の整形で問題になるのはその領域の形状や濃さであり、毛の長さではない。つまり、既存の毛を長くすることよりも、毛のない部分に人工毛を加えたいという要望のほうが多いはずである。このような要望を満たすためには、人工毛は、皮膚か産毛のような微細な毛に接着されねばならない。

眉毛エクステンションの施術前と施術後の比較写真をインターネットなどで見ると、眉毛が目視できないところや産毛に対して人工毛が接着されているように見える。現に、産毛に接着できると謳っているサロンも少なくない。しかし、目視できないような成長初期の地毛に人工毛を接着することは避けるべきである。目視できない眉毛もしくは毛周期の成長初期の眉毛に人工毛を接着している場合、眉毛の成長を妨げ、結果的に地毛を減らしてしまう可能性が考えられるため

ある。また、本当にそのような微細な毛に接着できるのか、さらにそれが何日も持続するのかと言う現実的な問題もある。

5.2 一本ずつに接着しない場合の弊害

筆者が受講した技術講習では、眉毛1本に人工毛1本を装着することには注力せず、毛が必要な場所を施術者が判断し、その必要な「箇所」へ接着する手法が解説された。しかしこの手法には問題がある。

そのような施術をすれば、偶発的に眉毛1本に人工毛1本が接着されている場合もあれば、眉毛1本に人工毛数本が接着されている場合もある。つまり、眉毛の根元、中間、毛先に関わらず、毛があってほしい所に人工毛を接着しているため、人工毛の接着点は眉毛や皮膚や既に接着した人工毛など複数箇所へ接着されており、一貫性がないということである（図2）。さらにその結果、それらの人工毛は地毛と複数の点で接着され、クロスに絡み合い網の目になってしまう。このように絡み合った毛には塵埃やタオルの繊維などが付着しやすく、不衛生な状態となりやすい。また、タオルなどが引っかかった時には摩擦が大きいので、地毛ともども抜けてしまう恐れがある。

なお、講習では上記方法が解説されたが、その一方で、その時に配布された教科書には、眉毛の根元から1mm離して眉毛1本に人工毛1本を接着するよう記載されている。つまり、教科書と実態とが異なっているのである。

皮膚への接着と眉毛への接着

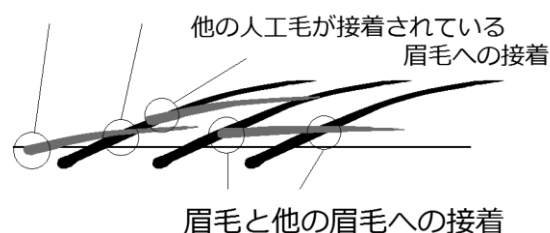


図2 眉毛エクステンションの人工毛の接着点

6. グルーの安全性に関する課題

先述したように、眉毛エクステンションのグルーは、成分が不明な場合が多く、成分を表示している物の多くは、シアノアクリレートを主成分としている。シアノアクリレートは、空気中などの微量な水分やヘアカラー剤から揮発するアンモニアガスなどに反応して瞬間的に硬化し、その過程でホルムアルデヒドが発生する。そのため、取り扱い及び施術には細心の注意

が必要であり、安全性の確保のための対応策が必要である。この点について、眉毛エクステンションの場合、解消すべき問題点がある。本節では、それらの問題点を指摘する。

6.1 グルーを皮膚へ接着することの危険性

グルーを直接皮膚に接着することは、安全上問題ないのだろうか。グルーが皮膚に付いてしまえば、かゆみや発疹、腫れなどの炎症が起こり、トラブルに発展する可能性が考えられる。しかし、眉毛エクステンションの場合は、眉部の皮膚に直接人工毛をグルーで接着しているサロンも少なくない。グルーの成分によっては、皮膚への悪影響が懸念される。

また、皮膚は、表皮細胞が作られ角質となり垢となって剥がれていき、ターンオーバーを繰り返している。そのため、皮膚に接着したグルーの持続性を高めることは困難である。

しかし、消費者は眉毛エクステンションの持続性に期待しているため、施術者は、持続するよう眉部に極力触れないようアドバイスを行う。言わば、放置しておくことが最も良い方法としている。そうすると、接着された人工毛によって、塵埃やタオルの繊維が絡まりやすく不衛生な状態を維持しなければならなくなる。つまり、持続性を得るためには、眉部を放置し、不衛生な状態を維持させなければならならず、皮膚への悪影響が懸念される。

6.2 グルーの取り扱いに関する規定

グルーの取り扱いについては、まつ毛エクステンションの場合、使用期限や保管方法に指定があり、理想的な施術時の室内温度や室内湿度に関する基準が設けられている。グルーは、使用方法や保管方法によって劣化速度が大きく異なり、時間の経過によって糸を引く現象や硬化速度が遅くなる現象が生じる。そのため、まつ毛エクステンションのグルーでは、未開封時の使用期限や開封時の使用期限の目安が表示されているものがあり、グルーの劣化によるトラブルを防いでいる。そして保管時には、ノズルやキャップに付着したグルーや汚れを綺麗に拭き取り、キャップを確実に閉め、冷暗所（保管温度 18℃～23℃）に保管する。これは、湿気やアンモニアガスによる劣化を防ぐために行う。さらに、施術時における室内温度を 25℃から 28℃、室内湿度を 55%前後にすることで、グルーの効果速度を一定に保っている（株式会社松風 2017）。

眉毛エクステンションの場合においても、グルーの使用期限や保管方法を指定し、理想的な施術時の室内温度や室内湿度に基準を設ける必要があると考える。しかし、筆者が受講した眉毛エクステンションの技術講習では、これらの基準が設けられておらず、その時に配布された教科書に、グルーに関する安全性に配慮した取り扱いについての記載はなかった。

さらに、筆者が受講した技術講習で使用したグルーには、いくつか問題点があった。技術講習で扱われていたグルーは 2 種類あり、1 つには「肌用グルー」と記載したラベルが貼られていた。この「肌用グルー」と記載されたラベルは、テープに印字された簡素なもので、製造者によって貼られた物が協会によって貼られた物かは不明であった。このラベル以外には 2 種類のグルーの違いは見られなかった。この 2 種類のグルーの違いについて、技術講習ではその使用用途や使用方法、施術方法などの説明はされておらず、「肌用グルー」のラベルがあるものは皮膚接着用として、もう 1 つは眉毛接着用として用意されたものであると推測する。

これら 2 種類のグルーに関する最大の問題は、注意事項として「3. Avoid direct contact with eyes or skin.」目や皮膚に直接触れないようにと英語表記されていたことである。つまり、皮膚に接着してはいけない物を「肌用グルー」と呼んでいるのである。また、この注意事項の英語表記の字は、非常に小さく明記されており、視力が良い者でなければ読むことができないほどである。そのため、受講者は皮膚に接着してはいけないグルーを「肌用グルー」として、皮膚に接着していることに気付かず、施術を行っている可能性が高い。注意事項に皮膚に接着してはいけないとあるグルーを、直接皮膚に接着していることは危険な行為と言える。この危険な行為を、施術者である美容師が、知らずのうちにやっていることもまた非常に危険である。

6.2 施術時によるグルーの注意事項

先述したように、シアノアクリレートは、空気中などの微量な水分やヘアカラー剤揮発するアンモニアガスなどに反応して瞬間的に硬化し、その過程でホルムアルデヒドが発生するため、取り扱い及び施術には細心の注意が必要である。そのため、施術時において、グルーの揮発成分が人体に影響を及ぼさないよう消費者とグルーの距離について基準を設ける必要がある。

まつ毛エクステンションの場合、公益社団法人日本

理容美容教育センターが発行している『まつ毛エクステンション』では、施術時のグルーの扱いに関して次のように定めている。基本的にグルーはワゴンの上に配置し、消費者の顔まわりから40 cm以上離してグルーを置くとしている。消費者の顔周りから遠ざければ遠ざけるほど、シアノアクリレートの揮発成分による人体への影響は軽減できるが、施術者の実質的に接着可能な距離を配慮し、40 cm以上という基準となっている。

これは、眉毛エクステンションの施術時においても、グルーの成分がシアノアクリレートである場合、同様に基準を設けるべきであろう。ホルムアルデヒドは眼球や粘膜に直接触れたときだけに害があるわけではなく、呼吸器系へも害をもたらすことが知られている。従って、そういった空気中への拡散を考慮するならば、まつ毛エクステンションと同様に40 cm程度の距離は必要になると考えられる。

6.3 眉毛エクステンションのパッチテストの現状

筆者が受講した技術講習において配布された教科書には、グルーによるアレルギー有無の確認のため、必ず毎回パッチテストを行うよう記されている。その流れは、来店時、すぐにパッチテストを行い、カウンセリングなどの後、アレルギーの有無を確認するというものである。パッチテストの具体的な方法は、腕の内側や皮膚の目立たない箇所にグルーを1滴付けて、反応をみる方法である。これには、いくつかの問題点がある。

1つは、パッチテストの方法として、アレルギー反応を確認する具体的な基準時間が設けられておらず、アレルギーの有無を確認するには時間が曖昧で不十分な点である。アレルギーの発症は、すぐに症状がでる場合の即時型と、2～3日経過して発症する場合の遅延型がある。眉毛エクステンションのパッチテストの場合、消費者が来店してからカウンセリングなどの後までの時間は、おおよそ数分から1時間程度であり、遅延型のアレルギーを確認するには、不十分である。

例えば、ヘアカラーの染毛剤によるアレルギーの有無を確認するパッチテストの場合、ヘアカラーの染毛剤には酸化染毛剤が入っているものがあり、人によってかぶれなどの皮膚炎を起こす場合があるため、施術前には毎回必ずパッチテストを行う。使用する染毛剤を調合して、腕の内側や耳の後ろの生え際に塗布し、塗布後30分と48時間の2回はアレルギー反応を確認する。眉毛エクステンションの場合においても、遅延

型のアレルギーを確認するため、グルー塗布後だけではなく、2日後以降の確認も必要である。

もう1つは、パッチテストの方法として、腕の内側や皮膚の目立たない箇所にグルーを1滴付けて、反応をみる方法だけでは不十分な点である。眉毛エクステンションの場合、肌に接着する用途のグルーと地眉に接着する用途のグルーがある。この2種類のグルーは、それぞれの内容成分も違うほか、皮膚への刺激や持続性も異なる。地眉に接着する用途のグルーは、肌に接着する用途のグルーに比べ、接着能力が高く、皮膚への刺激が強いものが多い。腕の内側や皮膚の目立たない箇所に地眉に接着する用途のグルーを肌に直接付けることは、非常に危険であるため、別な方法でパッチテストを行う必要がある。

まつ毛エクステンションの場合、地まつ毛に人工毛を接着するため、地まつ毛に接着する用途のグルーを使用する。まつ毛エクステンションのパッチテストの方法は、腕の内側や皮膚の目立たない箇所に地まつ毛に接着する用途のグルーを皮膚に直接1滴付ける方法ではなく、実際の施術方法を行う。その方法は、片目ずつ均等に10本の人工毛を地まつ毛に装着して、2～3日様子をみる方法である。つまり、地毛に接着する用途のグルーのパッチテストは、地毛に付けてアレルギーの有無を確認するのである。

このように、眉毛エクステンションの場合においても、地眉に接着する用途のグルーのパッチテストの方法は、実際の施術方法を用いて、両眉に均等に数本の人工毛を装着する方法を行うべきである。パッチテストは、使用するグルー全てにおいてアレルギーの有無の確認を行う必要があり、その方法は、使用するグルーの用途によって適切な方法でパッチテストを行うべきである。

6.4 グルーの業界自主基準の推奨

先述したように、眉毛エクステンションのグルーは、成分表示がないものが多く、安全であるかの判断が付きにくい。実際は、使用することで安全であるか判断しなければならず、そのリスクは高い。

まつ毛エクステンションの場合、一般社団法人日本まつげエクステメーカー連合会によって、まつ毛エクステンションの道具の健全や安心、安全を追求していくための業界自主基準が設けられている。これは、ヒト皮膚一次刺激性試験（パッチテスト）と、まつ毛エクステ用グルーホルムアルデヒド試験（MATSYREN基準）を外部の機関において検査を実施し、自主基準

にある条件を満たしている製品に限り「まつれんマーク」を表示しており、業界内で確立され普及されている。

眉毛エクステンションのグルーにおいても、業界自主基準を設け、一定の安全基準を満たしているものが分かるマークを表示し、安心と安全を追求していくべきである。

7. 技術・安全基準の運用体制に関する課題

これまで眉毛エクステンションの現状を述べてきたが、それに関わる行政、美容師養成施設、協会団体において解消すべき問題点がある。本節では、それらの問題点を指摘する。

7.1 厚生労働省による適切な対応の要望

厚生労働省は、眉毛エクステンションの課題の認知を急ぎ、適切な対応を行うべきである。眉毛エクステンションの現状は、これまで述べてきたように、消費者にとって安全とはいえ、安全に消費者へ提供される美容技術としては課題が多い。公的機関は、眉毛エクステンションの問題点や危険性について認識し、眉毛エクステンションが美容師法に定める美容の業であるか否かの法解釈を周知すべきである。また、多くの課題解決に向けて、指導の徹底を行うべきである。このままでは、まつ毛エクステンション同様に技術基準の設置や法解釈が、消費者トラブルの後手に回ることになりかねない。

特に、自分自身で施術を行うセルフ眉毛エクステンションやセルフまつ毛エクステンションについては、消費者に危険性を伝える必要がある。エクステンションを自身で施術するためには、対象部を見なければならぬため、目を開けた状態で施術を行う必要がある。そうすると、揮発成分が自身の目に付着する可能性が高くなる。それゆえ、美容師が施術する場合よりも危険性が高くなるのである。消費者は、このような危険性を認識しないまま行っている場合がほとんどであろう。また、一般消費者は美容師に比べ、グルーの成分や肌の仕組みに関する基礎知識が少ないと考えられるため、こういった消費者への危険性の喚起はより周到に行われるべきであろう。

7.2 美容師養成施設で学ぶべき事象

現在、美容師養成施設で学ぶ教科書に眉毛エクステンションの扱いは無い。つまり、眉毛エクステンションの問題や危険性について無知の美容師を世の中に送

り出していることになる。これは、眉毛エクステンションに限ったことではなく、まつ毛パーマについても同様のことが言える。

問題や危険性がある美容技術だと知ってその業を行うことと、無知のままその業を行うことは、大きな違いがある。美容師は、自身でその美容技術の良し悪しを判断すべきであり、判断できるよう養成施設で美容の知識や技術を学ぶのである。眉毛エクステンションの美容技術が確立しない現在、これまで述べてきたように、眉毛エクステンションの現状として多くの問題がある。その現状を、美容師養成施設で学ぶことは重要であると考えられる。

7.3 協会団体の運営体制の整備

眉毛エクステンションの技術講習の多くは、眉毛エクステンションに関わる協会が主催している。また、その協会で技術講習を受講したものが認定講師となり、彼女らや彼ら自身でも技術講習を開催している。つまり、眉毛エクステンションの美容技術のほとんどが、眉毛エクステンションに関わる協会が推奨しているものである。

しかしながら、筆者が協会主催の技術講習に参加した限り、その講習内容は安全な眉毛エクステンションを普及させるために十分とは言えない（2017年8月に参加）。

まず、技術講習で配布された眉毛エクステンションの教科書は、14ページの分量しかない。しかも顔や眉に関する一般的知識の解説が多く部分を占めており、エクステンション技術の要点である接着方法については数行分しか記載がない。また、グルーについても数行の記載しかない。さらに、衛生管理に関する記載はほとんどない。公益社団法人日本理容美容教育センターが発行している『まつ毛エクステンション』の教科書（公益社団法人日本理容美容教育センター2016）が全98ページであることを考えれば、眉毛エクステンション協会の教科書の分量が少ないことは明らかである。

次に、技術を取得するためのカリキュラムとして、時間と内容が不十分である。まつ毛エクステンションやその他美容技術において、多くの場合は人への施術を行う前に、練習用のマネキンなどを使用してトレーニングを行う。そして、一定の美容技術を習得してから初めて人の施術を行うのである。しかし、筆者が受講した技術講習においては、練習用のマネキンなどを使用したトレーニングは行わず、初めての施術を人

行った。初心者が人の施術を行うことは、それ自身が非常に危険な行為である。そして、この行為は受講者にとって、眉毛エクステーションの美容技術はマネキンでの練習が必要のない初心者でも施術可能な簡単な美容技術であるという誤認に繋がりがねない。

さらに、技術講習では受講者同士が相モデルとなり、施術トレーニングを行ったが、その際にパッチテストは行われていなかった。配布された教科書では、必須であると記載されていたが、実際技術講習ではそれに則っていなかったことになる。この事実は、協会自身がパッチテストと教科書を軽視していることを表しているようにも解釈できる。

このように、協会が普及させようとしている眉毛エクステーションには、多くの課題があり、信用性に欠ける点がある。今後、協会は技術講習のカリキュラムを見直してゆくべきであろう。

8. 結論

これまで見てきたように、眉毛エクステーションはまだ発展途上の技術であり、その運用体制も整備されているとはいいがたい。しかしながら、眉を整えることの重要性を考えれば、消費者から施術を求められたり、美容師養成施設で指導する必要があるだろう。そのためには、接着技術の標準化、グルーの安全性保障、ならびに運用体制の整備が必要である。また現在すでに美容師として実施している者にとっては、これらの問題点を正確に把握しておくことが最低限必要である。

おわりに

本論文は、眉毛エクステーションの現状から見る諸課題について議論してきた。これらの問題解決には、接着方法の新しい技術が必要であり、安全性の高い接着剤の開発、美容師の知識と技術の向上が不可欠であると結論付けた。一方で、美容師は消費者の眉毛エクステーションに対する期待にも応えていかなければならない。

美容師は主に頭髪を扱ってきたわけだが、まつ毛エクステーションが普及し、眉毛エクステーションが行われるようになった現在、まつ毛や眉毛の体毛をも積極的に化粧するようになった。この背景には、消費者がまつ毛や眉毛を自分の理想とするものに近づけたいという期待があり、その方法としてまつ毛エクステーションや眉毛エクステーションが存在している。消費者が求める化粧には多くの役割があり、その役割を果

たすための化粧を、美容師は提供し続けなければならない。そのためには、眉毛エクステーションの諸課題について、積極的に取り組んでゆくべきである。

しかしながら、そこには美容師として施術すべき美容技術であるか否かを見定める必要があり、安全に施術ができるよう努めなければならない。消費者が求める期待にだけに忠実に応えるのではなく、美容師としての責務を果たせるか判断する必要がある。

日本社会においてより良い人生を歩むための「顔」づくりが重要になっている。現に、まつ毛エクステーションや眉毛エクステーションといった、新たな美容技術が増えており、そこに美容師が携わっている。美容師は、消費者の「顔」づくりをどのようにデザインしていくべきかを考え、期待に応えるためにより安全な美容技術を提供していかなければならない。

謝辞

本論文を執筆するにあたり、松下戦具准教授には特に草稿の段階で建設的なご意見をいただきました。松下戦具准教授のご厚意に深く感謝いたします。

参考文献

- BSS, 2018, 「眉毛エクステ・まつげエクステ透明グルーウルトラ速乾超長期持続グルー5ml」, 美容と独立開業のプロショップBSS, (2018年9月17日取得, <https://item.rakuten.co.jp/b-s-s/elgoric5g/>)
- Eieiooo, 2017, 「眉毛エクステメリット・デメリット！持ちや費用はどれくらい?」, Eieiooo, (2018年9月5日取得, <https://eieiooo.jp/メイク/眉毛エクステのメリット・デメリット！持ちや費用/>).
- Ekman, P., 1979, About brows: emotional and conversational signals, In Human ethology (ed. M. von Cranach, K. Foppa, W. Lepenies, & D. Ploog), pp. 169-248. Cambridge: Cambridge University Press.
- ホットペッパービューティー, (2018年9月17日取得, <https://beauty.hotpepper.jp/>).
- 一般社団法人日本眉毛エクステーション協会, 『眉毛エクステーション講座』一般社団法人日本眉毛エクステーション協会.
- JAPAN BROWTIST SCHOOL, (2018年9月6日取得, <http://eyebrow.co.jp/scho-ol/willbrow/index.html>).

JEEA日本眉毛エクステンション協会, 2018, JEEA
日本眉毛エクステンション協会ホームページ,
(2018年8月29日取得, [https://j-eyebrow.com/
i-nfo/evoke_outline.html](https://j-eyebrow.com/i-nfo/evoke_outline.html)).

株式会社松風, 2017, 『Eyelash Extensions In-Class
Training Courses (テキストA5版ver.5.0)』株式
会社松風.

公益社団法人日本理容美容教育センター, 2016, 『ま
つ毛エクステンション』公益社団法人日本理容美
容教育センター.

厚生労働省健康局 (2008年3月7日健衛発第0307001
号)「まつ毛エクステンションによる危害防止の

徹底について」.

眉毛エクステ, 2018, 「デメリット！私が眉毛エク
ステを辞めた理由」, 眉毛エクステ, (2018年9月5
日取得, <https://xn--icko4a2cv938bv9n.xyz/>).

村澤博人, 2007, 『顔の文化誌』講談社.

津田紀代・村田孝子, 1985, 『眉の文化史』ポーラ文
化研究所.

ポーラ文化研究所, 1989, 『日本の化粧』ポーラ文化
研究所.

Sadr, J., Jarudi, I. and Shnha P., 2003, “The role of
eyebrows in face recognition,” *Perception*, 32: 285-
293.

Present Status and Future Challenges of Eyebrow Extension

Faculty of Liberal Arts, Department of Beauty and Fashion Studies
Yukari MADONO

Abstract

In this paper, we describe the present status and actual conditions of eyebrow extensions and examine various problems faced by hairdresser-qualified persons in practicing safe techniques responsibly. For that purpose, I first investigated various sources of information on the internet, confirmed the spread of eyebrow extension use and clarified the kinds of information that general consumers can obtain. In addition, I participated in a workshop held by an association of eyebrow extension and investigated the actual situation on the practice of eyebrow extension. The results show that eyebrow extension is still a developing technology, there are variations on the information available on the internet, the safety of adhesive used is not guaranteed, and the technique of eyelash extension is not well established. In order to promote eyebrow extension as a safe makeup technology in the future, it is necessary to standardize the technology, guarantee the safety of the adhesive, and establish relevant regulations that govern its application.

Keywords: Eyebrow Extension, Glue, Make up, Beauty, Eyelash Extension